日本をキリストへ
協力
28

「日本をキリストへ」
伝道団体連絡協議会
〒101　東京都千代田区神田駿河台2-1
TEL 03-3296-1001

人間関係のゴールデンテキスト

伝道団体連絡協議会副会長　ケネス・マクビーティ

ヨハネ三・一六が救いの方法を表すゴールデンテキストであるとすれば、エペソ四・三二は良い人間関係を表すゴールデンテキストであると言えると思います。「お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい」。

クリスチャンの間でさえ、よく全く反対のスピリット、無慈悲、憤り、怒り、叫び、そしり（四・三一）などに左右されてしまいます。どんなに神の心を悲しめていることでしょうか。霊において一番強く、結合していなければならない時に、エネルギーを無駄な戦いに浪費して、互いをダメにしているのではないでしょうか。

特に、伝道団体連絡協議会において、もう一度このことを振り返り、聖霊を教師とし、その深い意味を学んでみたいと思います。良い人間関係は人生の「油」であり、みことばに従った歩みの中心であります。私たちは神との関係に気を配るだけでなく、人々との関係にも気を配りたいと思います。

私たちは、「親切で、こころの優しい人」として召されています。他の人々への親切や優しさは、福音を伝えるうえでの真の力であり、キリスト者としての歩みに力と重みを加えるものです。「ですから、私たちは、機会のあるたびに、すべての人に対して、特に信仰の家族の人たちに善を行ないましょう」（ガラテヤ六・一〇）。続けて、「お互いを赦し合いなさい」と言っています。スムーズな人間関係のための神のパタンはここにあるのです。大きなことだけでなく、ささいなことにも、どんな場合でも、いつも無条件の赦しをもって対処しなければなりません。この秘訣を学ぶ時、私たちの歩みにどんなに自由と赦しの霊が与えられることでしょう。

伝道者たちは、改心者がキリストに従おうと前に出てきた時、まず教えたことは「他の人々を赦す」ということでした。「神があなたを赦されたように、キリストにあってお互いを赦し合いなさい」。私はこのみことばを読んで心が震える思いになります。「神があなたを赦されたように」という信じられないほどの神が定められた高い標準に驚くのです。

彼らが悔い改めたので、赦したというのではありません。赦されるにふさわしい者になったからというのでもありません。神は私がまだ罪人であった時でさえ、私を赦してくださったのです。これが、人々を赦す時の基本なのです。このスピリットをもって宣教の働きにつかなければなりません。そして主のために強くなり、愛の一致があたえられるのです。しかしこれは、神の力と恵みによってのみあたえられるのです。私たちにもあたえられるように、神を信頼して歩んでいきたいと思います。

クリスチャン文書伝道団

〈本部事務所〉〒203　東京都東久留米本町4―13―34
☎0424―71―1527

クリスチャン文書伝道団（CLC）は、文書の影響力に注目し、文書によってあまねく福音を宣べ伝え、またクリスチャンの教化育成のために、諸教会と活動を共にする。CLCはその目的を達成する手段として書籍・トラクト類の企画出版、販売、また文書伝道の啓蒙のために、その働きをアピールする月刊誌「みちしお」を発行している。現在の主な働きは、国内十一のセンターによる日常の販売活動を通して文書の領布をすることである。

CLCは、文書を用いて主のみことばを宣べ伝えるべく、一九四一年イギリスにおいて創設された。日本での活動は一九五二年イギリス人宣教師B・オーラム師が文書伝道宣教師として遣わされたのに始まる。現在、世界四十五ヶ国で六百五十人の人々が常時活動している。次のターゲットとして考えているのは、ロシヤをはじめとした旧ソ連に属していた国々や北欧の国々に対してである。

◎働きとビジョン

ますます複雑化し、混迷する現代社会に生きざるを得ない現代人。しかも一人一人の多様さにますます加速がついてくる。そして、これらの人々との接点が乏しいと言わざるを得ない現状の中で、キリスト教は一体どのようなアプローチが可能だろうか。そのひとつとしてCLCは出版を通して、特に一般社会にも通用し、興味をもって読まれるものを模索している。そのための道は険しいがきっと可能だと思う。

ゴスペルワールド株式会社

〈事務所〉〒351-01　埼玉県和光市白子1―1―20―3F
☎048―463―3214
FAX048―463―3820

一九八四年四月、東京シャロームとして福音宣教の働きを目的に設立した。一九九〇年、日本だけでなく海外にも拡大され、世界宣教の願いを持って、ゴスペルワールド株式会社と社名を変更して現在に至っている。

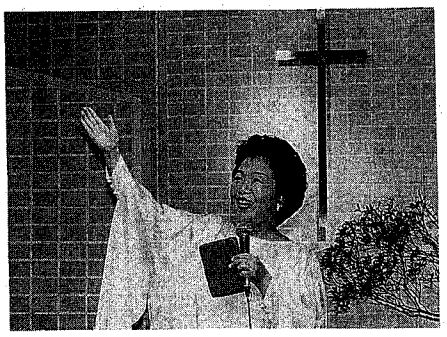
業務内容は、以下の通りである。

◎ゴスペルコンサート企画

ゴスペルシンガー胡美芳・久米小百合・上條篤・三上勝久・KISHIKO・高橋ちえ子・田野秀康による音楽伝道集会、婦人ランチョン、メンズサパー、チャリティコンサート等。

◎各種セミナー開催

教会音響セミナー・聖歌隊と指導者育成セミナー・ワーシップ&プレイズセミナー等、弊社協力の各講師を教会に派遣し、指導を行っている。



◎ゴスペルCD・テープ・ビデオ製作、販売、自費出版

賛美歌・聖歌・ワーシップソング・証し・メッセージ等企画、製作販売をしている。

◎集会・セミナー等の出張録画・録音

メッセージテープ・セミナーテープの即売も可能

◎ビデオ・カセットテープのコピーサービス

一本から受け付けている。

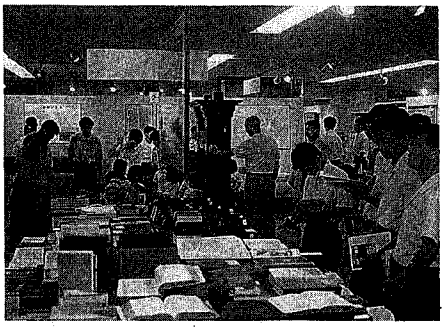
（写真＝胡美芳）

日本聖書協会

〈事務所〉〒104　東京都中央区銀座4―5―1
☎03―3567―1987
FAX03―3567―4436

日本聖書協会は、キリスト教の伝道のため一八七五（明治八）年以来、聖書の翻訳、出版および領布を行っている団体で、教会および信徒の皆様のご支援により運営されている財団法人です。

日本聖書協会は、信徒による超教派の伝道団体として、現在、世界の百十余の国や地域で活動しています。日本では、当協会の前進となる北英国聖書会社が横浜に設立（一八七五年）以来、本年で聖書事業百十七目を迎えております。この間、文語訳、口語訳、新共同訳聖書を発行し、全国の教会、キリスト教主義学校、キリスト教の専門書店や一般書店などを通じて広く読まれてまいりました。とりわけ、新共同訳聖書は一九八七年秋発行以来、本年三月で百五十万冊（旧新約聖書・新約聖書）を領布いたしました。



◎働きとヴィジョン

一　「共に住むすべての人にみことばを」のスローガンのもと、レインボウ・プロジェクト（聖書特別領布運動）を展開中。

二　「聖書展」を中心に各地で「ザ・バイブル・キャンペーン」を展開。本年は、六月に長崎で開催（浜屋デパート、写真）。来年六月に大分、十月に金沢で開催の予定。

三　聖書セミナー（春・秋）開催、「聖書と私」作品コンクール実施中。

お問い合わせ・広報・募金部☎03―3567―1980

日本ミッション

〈事務所（本部）〉〒534　大阪市都島区御幸町2―2―9
☎06―921―0418
FAX06―923―2284

日本ミッション創立のスピリットは、どんな方法によってでも人々をキリストへ、ということです。病院伝道から始まった働きは、その対象の範囲を多様化してきました。それは日本の教会の働きの拡大・多様化と同調しています。そしてミッションの働きを通じて得た回心者、求道者は、すべて福音的教会へ紹介しています。教会との連絡を密にすることを心掛けています。

日本ミッションは、一九五七（昭和三二）年に設立されました。南アから宣教師として来日されたコルネリオ・ファベイ師は、何年かの宣教伝道の間に、当時死亡率が高かった結核患者に対する組織的、定期的な病院伝道の使命が与えられたのでした。長い祈りの後に、大阪羽曳野へ本部をおきました。そして数名の伝道者、協力者と共に、羽曳野病院と周辺の病院への訪問伝道から、その働きが開始されました。現在、時代の変革に伴い、本部を大阪市に移し新たな伝道への働きを進めています。

◎働きの内容

・病院伝道　昭和三二年開始
・文書伝道　〃　三四年開始
・放送伝道　〃　三五年開始
・新聞雑誌伝道　〃　三九年開始
・映画伝道　〃　四二年開始
・制作部　〃　四八年開始
・ジョイ・クラブ　〃　五七年開始
・セーブ、SAVE　平成四年開始
・バイブルキャンプ、その他の集会
・奈良、京都、東京に伝道支部開設

地域教会と超教派伝道団体 ③

―「パラチャーチ考」から―

キリスト者学生会総主事　片岡　伸光

地域教会と「パラチャーチ」と呼ばれる超教派伝道団体は、本来同じ主によってたてられたパートナーであるはずですが、残念ながら緊張関係になることが少なくありません。ひとくちに超教派伝道団体といっても、働きは種々あり、その形態も様々ですが、特に緊張関係が起きやすいのは、次のような場合です。

一　人を巡るもの

学生伝道等のように、教会員が地域教会を越えた活動や交わりに参加するときに起こりやすい緊張です。地域教会には、教会の所在地域を中心とした使命や活動があり、教会員はその担い手として期待されています。その教会員が教会外の働きに参加し過ぎて、教会の活動に出られなくなったりすることがあります。集会の時間が重なるといったことだけではなく、コミットメントの度合いや優先順位にかかわる問題です。教会に席は連ねていても、主たる霊的関係が、超教派伝道団体に移ってしまうような場合、地域教会は超教派伝道団体がいかに高邁な目的を掲げて働いていても、その働きは有害なものとみなされます。

さらに、地域教会からみれば、賜物ある人材が各種の働きにスタッフとして流出する問題があります。教会が、その使命と賜物を理解し、あのパルナバやサウロのように（使徒一三・一―三）、祈りのうちに送り出してくれる場合は幸いです。しかし、十分な理解がないまま、個人の自由な決断でことが進められるような場合は、思わぬ誤解を生みます。働きが主のご用ということで、既成の計画に反対しづらく、不安や不信が地域教会サイドに内向しやすく、その分問題が長びき、潜行しやすいのです。超教派伝道団体が、スタッフをたてる際は、地域教会と十分な連絡をとり、採用しようとしている人物をめぐる教会内の状況を知り、また十分な理解を求める必要があります。とくに、地域教会がその人物に関して、祈りのうちに準備をしているようなおりには、それを飛び越えるようなことがあってはならないと思います。

反面、十分理解を求めて話し合いをすることができれば、超教派伝道団体は、地域教会の働きの枠組みを広げていただくことに役立てるのです。このことこそが、超教派伝道団体が参与できる、教会を建て上げるわざであると信じます。逆にこのプロセスでつまづくと、「パラチャーチ」そのものの存在基盤を狭めることになり、それは主の働きを縮めます。

二　財政をめぐるもの

いまひとつの問題が起こりやすい領域は、財政をめぐるものです。自ら事業を営み、自営している団体でもなければ、超教派伝道団体は信仰者の献金によって成り立っています。地域教会からみれば、これも流出と見えやすいものです。ことに、働きの意味や目的が地域教会に理解されない場合はなおさらです。地域教会の指導者は、献金のために利用されていると感じます。信仰的に若くて未経験な信者が、地域教会を献金によって支えていく務めを果たす以上に他の働きにささげるような場合、葛藤が生じることも不思議ではありません。少なくとも、その構造は理解しなければならないと思います。

聖書は、献金を、一人一人が神に示されて、心で決めた通りにするものと教えます（Ⅱコリント九・七）。けれどもその場合、その献げる人に、健全な地域教会の一員としての自覚を土台とした自由さが、必要であると思います。地域教会は内側に向きやすい傾向をもっているといわれます。だとすれば、地域教会との忍耐深い関わりとその建て上げこそ、超教派伝道団体に与えられた使命を最短コースで成し遂げる道ではないかと思うのです。

つづく

発行日　一九九四年十月十日
発行者　羽鳥　明
編集者　鈴木　繁